



「 ダマスコ・ケダルとハツォル、エラムの預言～異邦人への裁き⑥ 」

| エレミヤ書講解-90 エレミヤ書49:23~39 小野寺 望 牧師

- 32 彼らのらくだは獲物になり、 その家畜の群れは分捕り物になる。
わたしは、もみ上げを刈り上げている者たちを 四方に吹き散らし、
あらゆる方向から彼らに災難をもたらす。 — 【主】のことば—
- 33 ハツォルはとこしえまでも荒れ果てて、 ジャッカルの住みかとなる。
そこに人は住まず、そこに人の子は宿らない。」
- 34 ユダの王ゼデキヤの治世の初めに、エラムについて預言者エレミヤにあった【主】のことば。
- 35 万軍の【主】はこう言われる。 「見よ。わたしは エラムの力の源であるその弓を折る。
わたしは天の四隅から、
- 36 四方の風をエラムに吹きつけさせ、 彼らをこの四方の風で吹き散らす。
エラムの散らされた者が入らない国はない。
- 37 わたしは、エラムを敵の前に、 そのいのちを狙う者たちの前にうろたえさせ、
彼らの上にわざわざ、 わたしの燃える怒りをその上に下す。
— 【主】のことば—
- 38 わたしは、彼らのうしろに剣を送って、 彼らを絶ち滅ぼす。 わたしはエラムに
わたしの王座を置き、 王や首長たちをそこから滅ぼす。 — 【主】のことば—
- 39 しかし、終わりの日になると、 わたしはエラムを回復させる。
— 【主】のことば。」

【 アモス書 】

- 1:4 わたしはハザエルの家に火を送る。 その火はベン・ハダドの宮殿を焼き尽くす。
- 1:5 わたしはダマスコのかんぬきを打ち壊す。 王座に着いている者をアベンの谷から、
王笏を持っている者をベテ・エデンから断つ。こうしてアラムの民はキルへ捕らえ移さ
れる。 — 【主】は言われる。」

* 特に断りが無い限り、新改訳2017より使用

【 エレミヤ書 49章 】

- 23 ダマスコについて。
「ハマテとアルパデは恥を見た。 まことに、彼らは悪い知らせを聞き、
海のようにかき乱され、 静まることもできない。
- 24 ダマスコは弱り、恐怖にとらわれ、 身を翻して逃げた。
産婦の陣痛のような苦しみにとらえられて。
- 25 どうして、誉れの町、わたしの喜びの都が 捨てられたのか。
- 26 それゆえ、その日、 その若い男たちは町の広場に倒れ、
その戦士たちもみな、黙らされる。 — 万軍の【主】のことば—
- 27 わたしは、ダマスコの城壁に火をつける。
その火はベン・ハダドの宮殿を食い尽くす。」
- 28 バビロンの王ネブカドネツアルが討ったケダルとハツォルの王国について。【主】はこう
言われる。 「さあ、ケダルへ攻め上り、 東の人々を荒らせ。
- 29 その天幕と羊の群れは奪われ、 その幕屋も、すべての器も、 らくだも、運び去ら
れる。 人々は彼らに向かって叫ぶ。 『恐怖が取り囲んでいる』と。
- 30 ハツォルの住民よ、逃げよ。遠くへ逃れよ。 深く潜め— 【主】のことば—。
バビロンの王ネブカドネツアルが、 おまえたちに対してはかりごとをめぐらし、
おまえたちに対して 計略をめぐらしているからだ。
- 31 さあ、安んじて住む穏やかな国に攻め上れ。 — 【主】のことば—
そこには扉もなく、かんぬきもなく、 その民は孤立して住んでいる。

(4ページへ続く)

◆はじめに ～反イスラエルの国々をも支配しておられる神

1.安倍元首相襲撃事件と統一教会（世界平和統一家庭連合）

2.「偽メシア」と蜜月関係にあった政界 ～神は罪人を用い、巨悪を明らかにされた。

3.マスコミは、この教団と創始者や現指導者、政府の罪の本質を追及できない。

- ①権益を持つ人々の圧力や、忖度が強気に働いた。今も告発者への嫌がらせがある。
- ②真のメシアの素晴らしさと影響力、それを悪用する罪深さを心のレベルで理解していない。
- ③結果、単なる「現人神（あらひとがみ）」によるカルト団体という理解に留まる。

4.神の啓示（聖書）に従い、真のメシア・キリストのみを見上げよ。

◆メッセージのアウトライン紹介とゴール

異邦人さえも支配しておられる神

*このメッセージは、イスラエルの周辺諸国への預言から、神の支配を覚えるものである。

I ダマスコに下るさばき（23～27節）

1.イスラエルの北方の民へ

(1) ダマスコ、ハマテ、アルパデはシリアの3大都市である。2サム8：5

①ダマスコ：小アジアと南を結ぶ通商路に建てられた要塞都市。

*この時代、ダマスコはアラムに服していた。

②ハマテ：ダマスコの北192キロにある北アラムを代表する町。

③アルパデ：アレッポの北西約25キロにある町。



2.神からの悪い便りの成就

(1) バビロン軍が侵攻して来るという悪い知らせを聞いて、震えおののく。

①ダマスコはかつて神に喜ばれた町。ダビデの時代はイスラエルの領土。

②悪い知らせは成就し、ダマスコの兵士たちは殺される。

*城壁が焼かれる（前605年に成就）アモ1：4～5参照

*カルケミシュの戦いで、エジプトのファラオ・ネコを倒した直後と思われる。

(2) 神はベン・ハダデの宮殿を火で焼き尽くすと預言された。

①ベン・ハダデとは「偶像神ハダデの息子」という意味。

*アラム人が礼拝する「風の神」を指す。

②前9世紀から前8世紀にかけてダマスコを首都とし、シリアを治めた王朝。

*参照聖句は1列15：18、20：1、2列6：24など

II ケダルとハツォルに下るさばき（28～33節）

1.イスラエルの東方の民へ

(1) ケダル：アラビア半島に住むアラブの遊牧民。

①イシュマエルの子孫（創25：13） ②弓の名手（イザ21：16～17）、

③羊飼い（イザ60：7）、④好戦的な民（詩120：5～6）

(2) ハツォルとは、アラビア半島にあった都市（詳細は不明）

①東方の遊牧民？（創29：1、エゼ25：4）

②ガリラヤ湖の北にある要塞都市とは別の都市と考えられる。

*今日のサウジアラビア周辺

2.神のさばきとしての略奪

(1) バビロンの王、ネブカデネツアルはケダルを攻撃する。

*その天幕と家畜すべてを奪った。（前599年）

(2) 神はハツォルの住民に直ちに避難し、穴の中に身を隠すように警告した。

①それでも神のさばきの器（ネブカデネツアル）は必ずやって来る。

②永遠に荒れた地（ジャッカも住まない）

*つまり、千年王国においても回復が許されない地、ということになる。

III エラムに下るさばき（34～39節）

(1) エラム：バビロンの東にある国（今日のペルシャ、またイラン）

①彼らもまた、弓の名手として知られた。（イザ22：6）

(2) 神はエラムの弓を砕くと宣言された。弓は彼らの「力の源」である。

①バビロンを打つメディヤ（「荒す者」と）と並んで、「裏切り者」と呼ばれる。

②つまりはバビロンのを裁くの器として用いられた国。イザ21：1～10参照

*イザヤはバビロン滅亡に関する預言を200年以上前に語っていた。

(3) 敵は四方からエラムに向かって攻めて来る。

①その結果、エラム人たちはその地から追い払われる。

②「風」は軍事的侵攻（参照 ゼカ6：5など）

(4) 成就：ネブカドネツアルは前597年にエラムを攻撃した。

①実際はバビロンに先制攻撃をしたが、反撃されたようである。

②エラムはバビロンの次に覇権を握ったペルシャ帝国の中心都市となる。

(5) エラムには将来の回復の希望がある。38～39節

◆まとめ：異邦人さえも支配される神

1.裁きと復活の預言のまとめ

(1) 中間時代：①部分的な滅びを経験する国。 ②完全に滅んでしまう国。

(2) 大患難時代：①滅び、一定期間荒れ果てた後、回復が約束される国。

②滅んだまま回復が約束されず、千年間荒れ果てたままの国。

③アッシリヤの回心と回復。イザ19：23～25

(3) 共通点は、あらゆる国や民族に、真の神の御手のもとにあること。

①日本人の言い訳：日本的ではない。スピリチュアルや無神論へのあこがれ

②多くの人々が意図せずに、悪魔の企みに乗っている恐ろしさ